

# 経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和元年 11 月 22 日(金)午後1時 30 分～午後4時 01 分(9階 908 会議室)

## ○出席委員(8名)

委員 長	二階堂武文
副委員長	佐々木 優
委 員	高木 直人
委 員	川又 康彦
委 員	石山 波恵
委 員	阿部 亨
委 員	小松 良行
委 員	山岸 清

## ○欠席委員(なし)

## ○市長等部局出席者(なし)

## ○議 題

「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」

- (1) 現地調査について
- (2) 現地調査意見開陳
- (3) 当局説明について
- (4) 行政視察について
- (5) その他

---

午後 1 時30分            開    議

(二階堂武文委員長) それでは、ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査を議題といたします。

まず初めに、現地調査についてを議題といたします。

お手元に配付の行程に基づきまして、古関裕而記念館へ向かいたいと思います。

なお、当初参考人として依頼する予定だった齋藤秀隆氏より、過去の講演で使用した資料を提供いただきましたので、それらもあわせて配付させていただいております。こちら本日の参考資料としてお使いいただければと思います。

それでは、委員会を暫時休憩し、出発いたします。

午後 1 時 31 分 休 憩

---

午後 3 時 30 分 再 開

(二階堂武文委員長) それでは、皆さんお集まりですので、委員会を再開したいと思います。

それでは、本日の現地調査について、意見の開陳をお願いいたします。

本日視察した内容及び聴取した説明に関してご意見のある方はお述べください。

(小松良行委員) あそこに置いてあって、どうぞおとりくださいと、チラシやパンフレットがあったけど、これだけなのだよ、何か。せっかくだから、もう少し、先ほどの、もうちょっと少年期ここで過ごした古関さんとかというのの足跡がわかるような資料というのはちょっとないものかななんて、そんなことをここで言ったところでどうなるものでもないのかもしれないですけども、もう少し、これからエールということで観光客がここに来るということであれば、もう少し何か資料としてお渡しできるようなもの、できないのかななんていうのはちょっと思った、最初に思ったことですけども。

(阿部 亨委員) 今小松さん言ったのに関連する形なのですが、古関裕而氏を生かしたにぎわいの創出ということなので、20歳になると、もうこちらにはいないと言ったのでしたっけ。せっかくなら福島にいるときのとか、そのかわりですか、その辺もう少し、さっき言った幼少期もありますし、どういうふうにかかわっていたのかなということ、福島にいるときとか、そういうものをもうちょっと前面にとか、そういうものがちょっと余りよくわからないですよ。その辺もうちょっと調べるとか、そういう資料とかにもあったほうが確かにいいとは思っています。

あとは、入館者数とか、今の記念館の、ずっと見ていたんですけども、30年、現在は無料でここ10年ぐらいはやっているということで、多いときでも2万8,000なり1万3,000人ぐらいで、大体1日平均50人ぐらいという形なのですよ。これが多いかどうかはちょっとわからないんですけども、この辺の数字的なものを見て、今までは確かにちょっと少ない部分はあるのかなとは思っています。これから、記念館がいろいろあると思うんですけども、ほかの記念館などもやっぱりある程度ちょっと参考にする部分というのはあるのかなと。私もわからないです、そんな。特にどこか行ったとかというわけでもない、わからないんですけども、そういう部分で、もうちょっと展開する部分というのはあるのかな、ある程度やっぱり。

あと、年齢層でいくと、やはりある程度年配の人が多いのかな。曲とか、いろんなさっき説明して、その曲そのものはわからなくて、この題名の曲は知っているかなと私自身も思う部分はあるのだけれ

ども、ちょっとわからない部分というのはやっぱりあるのです。子供たちとかは、こういう学校の曲とか、あと教育とかという部分では関連というか、かかわっていく部分はあると思うのですけれども、やはり今現在のところはある程度年配の方向けという形になるのかなと思うので、若い世代とか、もちろん子供たちも含めて、その辺に焦点を当てたというか、スポットを当てた何か取り組みというのはあってもいいのかなとは思いました。

以上です。

(石山波恵委員) 館内の中の、1つずつ、例えばあそこで、机3つで作曲したとか、いろいろ、たばこ好きだったとか、それ見ればわかるのですけれども、改めて言われないとわからないこともいっぱいあるので、例えばCDとか買うときにも、館長の一言ではないけれども、このところ、サインボードではないですけれども、何かこれ見たら、実はたばこが大好きで、甘いものに目がなかったのですけれども、何かここにちょっと吹き出しではないですけれども、その部分のところも、見せ方というか、もっと、わあっ、見ただけで楽しかったり、こうなのだってよというのが、やっぱり初めて説明を受けてわかる部分のところは親しみをもっと持ってもらうための見せ方というか、そのサインボードの仕方もちょっと工夫があったほうがよかったかなと思います。

あと、これから4月、実際エールが始まって、お客様の、やはりスタッフの、先ほど小松委員がおっしゃったように、ボランティアではないですけれども、そちらの対応もやっぱり考えていかないと、来てからあたふたするよりは、それも考えた上で行動したほうがいいのではないかなと思いました。

(川又康彦委員) 3つありまして、1つは、ちょっと中でも言いましたけれども、古関裕而さんのイメージとして、私もそうなのですけれども、多分大多数の福島の古関裕而を知っている方は、多分こちらの写真よりは、こちらの年とられた、叙勲された際の写真ということで、あれが使われたと思うのですけれども、あれのイメージが非常に強くて、来られる方がお年寄りの方という部分であれば、ある程度いたし方ない部分もあるのかなと思うのですけれども、今回エールが放送されて、それを見て来る人というのは多分、今度主演される俳優の名前、窪田正孝で来ると思うのです。そういうイメージで。来て、見ると、ちょっと毛のない、ある程度お年を召した方を見るということになって、大分ギャップが強過ぎるのではないかなという気がして、そこら辺もうちょっと、少し対応したほうがいいのではないかなということが1つと。

それ、なぜその若い写真のほうがいいのかなと思ったのは、さっき見ていた写真の中に伊藤久男さんというイヨマンテの夜を歌った方、本宮なのです。先日、私、本宮にちょっと行く機会あって、駅前に伊藤久男さんの銅像、余り大きくはないのですけれども、あるのです。それはもうそんな年とっている銅像なのです。だから、そういうイメージで来たら、さっき写真が若いときのやつがあって、むちゃくちゃイケメンなのです。驚くほど。なので、何か写真の選び方というのは非常に大きいのではないかなというのが1つ思いました。

もう一つ、これからのまちのにぎわいという形で考えた際は、エールが放映になって、多分半年か

ら1年は来客も多いと思うのですけれども、ではその後どうしていくのというのは、多分これまでの入館者数がだんだん、だんだん減っていくのを見ても、例えば3万人から4万人に一旦なったとしても、1年か2年でもとに戻っていくような状況、もしくはもっと厳しい状況になっていくのではちょっとどうなのかなと思った際に、思ったのが、やっぱり来られる方は年をとられた方、ヒット曲が昔の曲なので、その対象の方がならざるを得ないのかなと思ったのですけれども、さっき北信中学校の校歌の話があって、子供たちも歌う。うちの飯坂小学校の校歌もそうなのですけれども、年とった人たちが知っているのではなくて、若い人たちも歌い継いでいるというふうになると、早稲田の応援歌とかもそうですけれども、校歌とか応援歌とか、それだと今の人たちも実際に歌っていて、作曲したの誰かはわからないかもしれないけれども、古関裕而さんなのだとわかったら、ある程度親しみも湧く部分が多いのではないかなと思って、全国校歌一覧という形ではありますけれども、これの校歌になっているところのサミットを開くではない、どういうふうにするのかはわかりませんが、定期的に校歌をつくっていただける方の地域の方を呼べるような仕組みづくりみたいなものがあるとちょっと違うのではないかなというふうに思いました。

以上です。

(山岸 清委員) あそこの記念館そのもののキャパ、容積が狭いから、あれはあれでしょうがないかなとは思っただけけれども、やっぱりお土産物、あそこ、盛んに館長は学術、研究のと言うけれども、やっぱりそれはそれとして、大義名分はそうだけれども、やっぱり一つの観光拠点だよ。だから、そこで福島の農産物なんか売れば、これはいいことだから、やっぱりさくらんぼ大将やっているのに、サクランボの時期にサクランボ、佐藤錦を飾っておいたりして売ったりするというのも大事だし、あとはやっぱりリンゴ、ナシ、モモもそれぞれあるわけだから、それらを、売り場がどうなのかなと思っただけけれども、そういうのも考えなければ、キャパが狭いから、そのときは外に、小屋がけでも何でもいから……。

【「JAだ、JA」と呼ぶ者あり】

(山岸 清委員) JAなんかとも考えてやればいいのかと思ったり、あとはもう一つは、市内にいたときの歴史も展示するのも大事だけれども、やっぱり今川又さん言ったように、全国の校歌、それがあるのだということで、ああ、私たちの学校の校歌も古関裕而だったのかとわかるように、やっぱり展示物、このパンフレットもいいのだけれども、一つの日本列島に、福島のやつだと、あそこの学校、ここの学校と書いてあって、ああいうやつの全国版があってもいいなど。あるいは、そのジュエックボックスみたいにして、そこの学校を押すと校歌が流れるなんていうのもあるといいななんて、アイデアとして。場所がないから、そう言っても。もうちょっと場所広いと、展示物もいろいろあったのだろう。

(小松良行委員) こういうことは考えていないものね。想定していなかったわけだからね。これはこれで。

(山岸 清委員) これ、エールになるなんて考えなかったでしょう、つくったとき。

(高木直人委員) 目的は、やっぱり福島のにぎわい創出なので、何とか、先ほどもいきなり入館者がふえたのがやっぱり旅行会社とタイアップしてコースの中に組み入れられたとかというのも話ありましたので、やはり今回何か古関裕而記念館も含めた、そういった周遊コースというか、それを何とかそれで、もしできればNHKのドラマがどういう展開で福島古関裕而さんのどういうところをピックアップするのかがもしわかれば、そこを先行して、そこも例えば古関裕而さんにかかわるコースということで組み入れられるように、もちろん古関裕而記念館もその一つにはなると思うのですが、何とかそういったところをちょっと先んじて何か情報を仕入れられないかどうかというか、どなたか、つてか何かあれば、そこに手を打っていけるのかなというふうにちょっと考えました。何とかにぎわい創出につなげたいということで、やはりドラマというのは、先ほど石山さんも言われていましたけれども、本当にもうすごい効果があると思うのです、集客という部分では。ですので、やはりそこをうまく先行して情報を仕入れられれば、そこに手を入れていければなというふうにと考えました。

(佐々木優委員) 館長のお話を聞いて、小学生の皆さんも結構いらっしゃるということで、中にはすごくコアな小学生もいるということを知って、やっぱり古関裕而さんが小学生時代に恩師の影響で音楽にすごく携わるようになったという、先生の教育とあってやっぱりすごく大事だし、自由な教育というか、それにはまる子もいるし、はまらない子もいるし、そういう何か伸び伸びした感じの時代をすごく感じる事ができて、すごくいいなと思ったのですけれども、例えば小学生だったら、音楽の授業にこれをやれなんていうことにはならないですけれども、例えばこの間古関裕而音楽祭のときに私も音楽を聞いていて、耳に残っていたのが館内でもずっと流れていて、すごく、余りその曲に触れたことはなかったのですけれども、きょうは何かすごく知っている曲となっていたのです。だから、やっぱりそういう聞くということは大事だし、なかなか古関裕而さんの曲に触れることがなかった人たちも、ドラマを通して、あっ、これ、この曲なのだということを何か親しんでもらえるすごいチャンスでもあるなと思ったので、やっぱり音の効果で福島市のそういう名誉市民である古関裕而さんってこういう人だったのだなと改めて感じるチャンスでもあるなと改めて思ったので、その音の効果をもっと有効に使うとか、小学生もそうだし、大人もそうだと思うのです。大人の若い世代の人たちもなかなか触れる機会がないけれども、ドラマを見て、窪田正孝さんを見て、あっ、古関裕而さんというふうにつながって、どういうことをしてきたのかなというふうに興味を持つ人はたくさん出てくると思うので、やっぱり音楽を通して福島市のよさを自分たちがまず感じるというふうなこともできるかなというふうに思いました。なので、音の使い方を工夫してみてもいいかなというふうに思います。

以上です。

(二階堂武文委員長) 順番ですので、私も感じたことということで、高木委員のほうからもちょっとありましたが、一つのコースの中にどう取り組んでいけるかということで、それがサクランボのシー

ズンとか、今やはり古関裕而記念館も、サクランボ狩りとか、いろいろフルーツ狩りに来たときに連動してくるといってお話もちょっとありました。そういった中では、旅行代理店さんでの企画の中にやはりうまく取り込んでいただくというのが1つポイントだし、先ほどもそういった流れの中で、番組開始に合わせた形で既に予約が入っているというようなお話もありました。このコース選定ということ考えたときに、先日、三市協の打ち合わせが仙台市役所でちょっとあって、行ってまいりましたが、やはり東北中央道も山形までもう行ける状態になってきて、仙台、山形、福島という南東北3県のトライアングル高速ネットワークもできましたので、やはり福島という、1つコース設定というか、福島の中でのシーズンの、果物のシーズンに合わせたコース設定であったり、あとは南東北3県の、1つ広域的なネットワークの中にうまくエールを位置づけることなんかもできれば、お互いにお客様を共有できるのではないかなという気もしましたし、これをセグメントして、細分化した中で、先ほど山岸委員のほうでおっしゃったように、校歌のジュークボックス版、これは何かあそこに多分何らかのご縁でコースに参加した人が来たときに、校歌ジュークボックスみたいなのがあって、自分のところの、福岡の校歌が載っているなんて言って、お金を入れて、かけて流れたときにすごい感動を呼ぶのではないかなということがあって、その校歌ジュークボックスはヒット商品になるかな、ヒット企画になるかなという気がちょこっといたしました。一応感想ということで。

(山岸 清委員) これはこっちの枠外だけれども、いろんな都市の、いわきなんかのハワイアンセンターのアロハシャツ着た議会なんかやるでしょう。あと、米沢は米織、何だか和服着てやったり。だから、福島も古関裕而さんを記念して、選挙運動は古関音楽を流してやるという決議を議会でやったら、みんなおもしろがってテレビに出るよ。古関裕而の音楽を流しながら選挙運動をやりたいという議会ですなんて。俺それ今度やろうと言ったのだ。六甲おろしを歌いながら選挙運動やろう。そしたら、事務局の人ら、それはふざけているから、やらないほうがいいと。飯坂のダムに行くところだけ、あそこの山の中だけやった。そしたら、あっちから来た人びっくりして。これは冗談。

(二階堂武文委員長) 他になければ意見開陳はここで終わって、次に進めさせていただきます。

では、以上に意見開陳させていただいて、次回の委員会で簡単に現地調査のまとめを行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

次に、当局説明についてを議題といたします。

お手元に配付しております資料で、経済民生常任委員会所管事務調査当局説明案をごらんください。こちらは、事前に正副委員長で聴取内容を検討した案でございます。この資料をもとに、当日の内容について確認してまいりたいと思います。

まず、1、調査日時ですが、令和元年12月20日金曜日、午後1時30分から開始で、終了予定は午後3時までを予定しております。

なお、こちらの時間についてはあくまで見込みであり、内訳が説明60分、質疑3分となっておりますが、当日の説明の状況や質疑の状況によって、多少時間が前後するものと考えております。

次に、2、場所ですが、9階の908会議室を予定しております。

次に、3、聴取内容ですが、こちらは前回の委員会で古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーを皆さんにお渡しした際に、私のほうから当局説明で想定している内容についても簡単に触れさせていたいただいたところですが、改めて確認していきたいと思います。

まず、(1)、これまで取り組んできた古関裕而氏関連の観光、文化事業についてということで、シンフォニーができる前から継続的に取り組んできた古関裕而氏についての観光や文化事業などの本市の取り組みを、①、取り組んできた事業とその実績、効果、今後の予定、②、市内に整備してきた古関裕而氏関連のスポットなど既存の資源と現在の活用状況と2本に分けて、ここで確認していきたいと考えております。

そして、(2)、ドラマ放映決定を契機とした古関裕而氏を生かした本市のにぎわい創出に向けた取り組みについてということで、古関裕而氏を生かしたまちづくりを推進することとなった、ここ最近の本市の現状や推進のための今後の取り組みなどを聴取していきたいと考えております。

内容としては、まず記載の①から③の内容について聴取し、そして④で特に古関裕而氏を活用した観光振興や町なかのにぎわい創出に向けた取り組みを、商工会議所の取り組みや観光コンベンション協会の取り組み、さらに民間の旅行会社や鉄道会社の動向も踏まえて聴取。続いて、⑤で市民団体等民間の音楽関連のイベントや古関裕而氏関連のイベントの開催状況を確認した後、最後に⑥でドラマ放映終了後も持続可能な古関裕而氏を生かしたまちづくりへの事業展望や、それらを実現するための課題について確認してまいりたいと考えております。

次に、4、当局出席ですが、記載のとおり、市民・文化スポーツ部、商工観光部となっております。

以上、当局説明の案ですが、このような内容でよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、当局説明についてはそのように進めさせていただきます。

次に、行政視察についてを議題といたします。

委員の皆様には、現在2月3日月曜日から7日金曜日の日程を押さえていただいております。また、これまで皆様からは折に触れて、視察先についてもさまざまな意見をいただいていたところですが、本日お手元に配付の資料に、それらのご意見を参考に、正副委員長で視察先の候補を何カ所かまとめましたので、そちらをごらんください。

資料は、全部で8カ所ほど案を提示しております。さらに、それらをジャンルごとに分けてまとめておまして、まず1つ目がゆかりの偉人を生かしたまちづくりをということで、記載の松山市と安城市。次に、2つ目が音楽を生かしたまちづくりをということで、浜松市、岡崎市、渋谷区。そして、3つ目が朝ドラ放映を生かした観光振興、にぎわいの創出ということで、恵那市、甲賀市、豊橋市であります。

正副委員長といたしましては、ジャンルごとに1カ所ずつ選定して、3カ所視察してはどうかと考

えているところですが、ここで若干時間をおとりしたいと思いますので、まずは視察候補地についての情報を各自ご確認いただいてからご意見を頂戴できればと思います。三、四分でちょっと目を通していただければと思います。

**【委員各自黙読】**

(二階堂武文委員長) それでは、行政視察につきまして、皆様からご意見ございますでしょうか。

(山岸 清委員) 俺、意見としては、最後の朝ドラ放映の場合は豊橋市、これ金子さんのところはやっぱり、福島とあっちとちょっと似通ってもうまくないけれども、このくらい離れているから、似通っていたっていいから、豊橋市のいいところをパクってきてもいいなと思って見ているの。

あとは、中も前も皆さんの意見でいいです。

(小松良行委員) ぜひ朝ドラでの取り組みとなれば、今現在やっているスカーレットの舞台となっているところのほうが一番参考になるのだろうなと。実際豊橋市にしてみても、これ会派で行ったから、言うわけではないのですけれども、本当にもっけの幸いで福島で盛り上がってくれたから、どちらも一緒に取り組んで連携していくというようなところでは、一択、豊橋市のほうも懸命にこれから取り組む、あるいは連携に取り組むということを申しておりましたけれども、むしろ今まさにやっているところでどんなふうなにぎわいになっていたり、どんなふうなところが、今回は陶芸関連とかなのでしょうから、まさに見てみたいと思うのはこっちのほうかななんて思ったりするところです。

それから、前から私も、2番の音楽を生かしたまちづくりということであれば、浜松がやっぱり中心になろうかなというふうには思っていますけれども、そのほかの場所でも別にいいのですが、ぜひこういうところでやっていただければうれしいなと思うのです。

以上です。

(二階堂武文委員長) いかがでしょうか。よろしいですか。

**【「なし」と呼ぶ者あり】**

(二階堂武文委員長) それでは、視察まで2カ月という状況にもなりまして、早目に打診を行わないと視察先の確保も難しい時期に入ってます。また、受け入れ先自治体の都合や全体的な行程なども考慮して日程を組んでいかなければならないことから、今お二方からご意見を頂戴いたしましたが、このご意見も参考にしながら、正副委員長手元でこの中から選定を進めさせていただくということでよろしいでしょうか。

**【「異議なし」と呼ぶ者あり】**

(二階堂武文委員長) それでは、そのように進めさせていただきます。決まり次第、また皆様にご報告したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

また、次の委員会は、12月定例会議中の委員会審査終了時のお時間をいただいて協議できればと思いますので、ご協力をどうぞよろしくお願ひします。

そのほか委員の皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) なければ、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

午後4時01分 散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文